



春にむかって 学校だより 令和元年度3月号
2020. 2. 28
三田市立けやき台小学校
ホームページもご覧ください。

3月、近づく春の足音を感じます。～この1年の学校へのご支援に感謝します～

3月になり、各地の花の便りに心が和む季節となりました。春は、すぐ目の前に来ています。

朝、校門で子どもたちを迎えるとき、どの子どもも一回り大きくなったように感じ、嬉しく思います。いよいよ、1年間の最後の月を迎えました。3月24日には、6年生136名が卒業証書を受け取り、新しい出発をします。けやき台小で学んだことを生かして楽しい中学校生活を送って欲しいと思います。

最高学年の6年生は、学校生活の様々な場面でリーダーとなり、下級生を引っ張ってくれました。連合体育大会や駅伝大会・フットサル大会・ドッジボール大会にも参加し、素晴らしい頑張りを見せ、好成績を残してくれました。また、入学当初は、あどけない姿を見せていた1年生も、学校生活にすっかり慣れ、あと1カ月後には新しい1年生を迎えます。2年生から5年生も、この1年間それぞれの学年にふさわしい成長が見られました。具体的な子どもたちの様子については、先日の授業参観・学級懇談会で担任の方からも話があったことと思います。

何より大切なことは、様々な視点から子どもの成長を認め、具体的な言葉でほめ、励ましてあげることです。その事が、子どもの自信となり「もっとがんばろう!」というエネルギーになります。お子様の1年間の成長ぶりをご家族で喜び合い次の学年へつなげていただきますようお願いいたします。この1年間、いつもけやき台小学校を支えていただいたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

☆新型コロナウイルス感染拡大防止について

本日、市教委からの指示文書を家庭数にて持ち帰らせました。今後、学校行事や学年行事、校外学習等の実施については、延期や中止の可能性がります。県や市教育委員会の方針に則し、対応を考えてまいります。したがって、「愛・ありがとう集会」や各学年だよりによって書かれている行事については、変更もありますのでご理解ください。詳細については追ってお知らせします。

優しさに感謝を込めて…「愛・ありがとう集会」

本年度も学校生活の様々な場面でお世話になった地域の皆様にお越しいただき、3月2日(月)に「愛ありがとう集会」を予定しています。各学年で工夫し、全校生で日頃の感謝の気持ちを伝えようと子どもたちに張り切っています。いつも登下校の安全を見守ってくださる方や学習ボランティアの方々、環境ボランティアやクラブ活動、防災、スクールボランティアの皆様をはじめ、沢山のお世話になっている方々にお越しいただきます。年に1度のこの機会ではありますが、子どもたちにとっても日頃から沢山の方々に見守られ、支えられていることを改めて感じるひとときになるものと思っております。お忙しいこととは思いますが皆様のお越しを心よりお待ちしております。

1/2成人式：4年生

2月13日(木)体育館・各教室で1/2成人式を行いました。当日はたくさんの保護者の方々にお越しいただきました。「クイントット～本気全力10オパワー～」をテーマに、一人ひとりが自分の夢や感謝の気持ちを発表しました。「歌、記念日」「143人のメッセージ」や「本気全力パフォーマンス」等子どもたちの感謝の思いに感動のあまり涙しました。素晴らしい式典でした。

☆けやきっ子一番☆ ◎三田市小学生ドッジボール大会 2/16(日)於：駒ヶ谷体育館

男子の部 ◎優勝 けやきん肉ムキムキマッチョ(6年4組)

◎4位 いかやきたこやきぼくけやき(6年3組)※詳細はホームページをご覧ください

【お知らせとお願い】

◎最後の月となりましたが、保護者の皆様の中で、この3学期に「転出・転入予定」のご家庭、「転入児童の情報」がありましたら、早めに小学校までお知らせ下さい。よろしく願いいたします。

承認
20.3.-7
けやき台自治会

親への感謝の思い 二重線は、4年生の子どもたちに話した内容です。

～子どもの頃の感謝の記憶は、成長するにつれて鮮明になり、より温かい心を育む～

夢 ～夢に向かってドリブルし続け、たくさんシュートをうとう。必ず夢を実現するスーパーゴールが生まれます～

2分の1成人式の「お祝いの言葉」で夢と感謝について話しました。私が、小学4年生の時は、このような式典はありませんでした。小学生の時、将来の夢は、3つありました。プロ野球選手、声優、そして小学校の先生でした。少年野球に没頭していた私は、当時全盛期を迎えていたジャイアンツに立ち向かっていくタイガースにあこがれていました。タイガーマスクやバビル2世というアニメを見ていて、臨場感あふれる声色に魅力を感じました。そして、担任していただいた先生のようになりたいと思っていました。大人になる過程で、3つの夢が絞られていき、今に至っています。幾つかの壁や多くの挫折を経験してきましたが、最後まで自分を信じてきました。「あきらめないでチャレンジすること」ってとても大切だと思います。

感謝 ～自分は1人で生きているのではない。親やまわりの人に支えてもらって多くの愛をもらっている～

幼少期や青少年期の頃は、毎日自分らしく楽しく過ごすのに一生懸命、まわりの人に支えられていることをさほど意識せず過ごしていたように思います。一番身近で支えてくれていた親には、年齢を重ねるたびに幼少期や青少年期の頃を思い出し、感謝の気持ちで一杯になります。幼少期の私は、小児喘息がひどくて、夜中にたびたび発作を起こしていました。その度に母親が、私をおんぶして徒歩で15分ぐらいかかる三田市民病院(当時は屋敷町)に連れて行ってくれました。母は、妹を妊娠している時にも私をおぶって「しっかりしいや、もうすぐやで」「ちゃんとしがみついたり」とハアハア息を切らしながら真っ暗な中、連れて行ってくれました。その光景は、今も脳裏にしっかりと焼き付いています。以下は私自身の振り返りです。

「大学は自分で行くところ」という父親の考えのもと、学生の頃は、学費や生活費をすべて自分で工面しながら4年間を過ごしました。結果的には、アルバイトで人間関係の構築を学び、また仕事やお金の大切さもわかり、人生にとって大きなプラスになっています。

小学生の頃から共働き家庭で、親の帰りは遅かったです。自活することには慣れていましたが、学費、下宿代、食費等金銭面での苦労はありました。母親は、布団をつくる工場に働いており、綿を扱う仕事をしていました。援助のための電話連絡をすることもためらい我慢を重ねていた2回生のある日、1箱のダンボールが届きました。母親からでした。開けると「米」「お茶の葉」「カップラーメン」「レトルトカレー」「自家製漬物」「石けん」等が少しずつ入っていました。それと1通の手紙、「少しだけお金を送ります。季節の変わり目には食べ物を送るね。教育実習を頑張って先生の資格をとってください。夢はかなうよ」と書いてありました。手紙と共に1万円が入っていました。それ以降、母親から現金書留で毎月1万円が送られてきました。(父に内緒で)私は、卒業まで母からもらった書留の封筒を捨てずにとっていました。卒業まであと2カ月ぐらいになったある日、ふと現金書留の封筒がいくつ届いたんだろうと数えていました。気づかなかったのですが、いくつかの封筒の中には、母親の仕事場の綿の繊維が紛れていました。私は、それを発見し、仕事場の母を思い浮かべ、涙にむせびました。

その母親は他界して28年になります。親のありがたみは、年を重ねるごとに強く感じています。